

2018年度海外研修旅行（イタリア）の報告

鈴木泰成・山口 剛

1. はじめに

本学では、キャリア開発の一環として毎年海外研修旅行を実施している。今年度で19回目となる海外研修旅行は研修先をイタリア北中部とした。提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校（以降、フェラーリ工業専門学校と略す）を訪問し両校の関係を一層深めるとともに、フェラーリ及びランボルギーニ工場の見学および各自動車メーカーの博物館見学、また異国文化を体験するために各都市を訪問する内容で実施した。

2. 研修旅程

イタリア研修旅行は、提携校であるフェラーリ工業専門学校への訪問など自動車に関わる研修に異国文化に関わる研修を交えた旅程を検討した。日程を8月27日から9月4日とし、現地滞在中に上記研修内容が実施できるように日程を調整した。こうしたことにより今回のイタリア研修旅行の実施日程は表1に示す内容とした。イタリア北中部の都市を中心に、自動車に関する研修ではフェラーリ社及びランボルギーニ社の工場と博物館、アルファロメオ博物館及びドゥカティ博物館を訪問した。また、異国文化に関する研修ではミラノ、ヴェネツィア、ローマなどの都市を訪問した。

3. 参加募集

研修旅行の参加募集人数を25人とし、3月下旬に入学前の新1年生及び在学生の保護者に案内を郵送した。さらに入学式終了後には新入生の保護者に対し研修旅行の案内をした。また、全学生に対し海外研修旅行に関わる意識調査アンケートをクラス別ガイダンスにて行い、研修旅行に参加を希望する学生の人数の把握を行った。その結果28名の参加希望があった。

4月中旬より掲示板及び各教室にポスターを貼り研修旅行の案内を行い、4月24日に第1回研修旅行参加希望者説明会を行った。21名の学生が説明会に参加した。その後数回にわたり説明会を行った。結果、研修旅行参加者が13名に決定した。これらの学生に対し、参加者説明会を行いパスポート、旅行保険、クレジットカード、現地での注意事項等研修旅行に関わる具体的な内容を説明した。また、参加する学生の保護者に対しても旅程や研修旅行先の確認をして頂くため、

表1 イタリア研修旅行実施旅程

日付	訪問都市	旅程内容
8/27 (月)	名古屋～ 香港	午後1時50分、中部国際空港集合 キャセイパシフィック航空にて香港へ
8/28 (火)	香港～ ミラノ～ ヴェネツィア (ヴェネツィア泊)	キャセイパシフィック航空にてミラノへ、市内観光 ドゥオーモ、スカラ座、ヴィットリオ・エマヌエレ2世のガレリア見学 バスにてヴェネツィアへ移動 ホテルにて夕食
8/29 (水)	ヴェネツィア (ヴェネツィア泊)	ホテルにて朝食後、市内観光 ドゥカーレ宮殿、サンマルコ寺院見学 ゴンドラ乗船後解散、自由行動 ホテルへ移動
8/30 (木)	ヴェネツィア～ アレーゼ～ マラネロ (マラネロ泊)	ホテルにて朝食後、バスにてアレーゼへ アルファロメオ博物館見学 レストランにて昼食後、バスにてマラネロへ フェラーリ博物館見学 ホテルにて夕食
8/31 (金)	マラネロ～ サンタアガサボロネーゼ (マラネロ泊)	ホテルにて朝食 フェラーリ工場見学、 昼食後、バスにてサンタアガサボロネーゼへ ランボルギーニ工場及び博物館見学 フェラーリ専門学校教諭宅にてウェルカムパーティー ホテルへ移動
9/1 (土)	マラネロ～ ボローニャ～ ローマ (ローマ泊)	ホテルにて朝食後、バスにてボローニャへ移動 ドゥカティ博物館見学 バスにてボローニャへ、途中レストランにて昼食 ボローニャ市街散策 列車にてローマへ移動
9/2 (日)	ローマ (ローマ泊)	ホテルにて朝食後、パチカンへ移動 サンピエトロ大聖堂見学後、ローマ市内観光 スペイン広場、トレビの泉、パンテオン、コロッセオ見学 見学後自由行動、各自でホテルへ
9/3 (月)	ローマ～ 香港	ホテルにて朝食後、出発まで自由行動 バスにてローマ空港へ移動 キャセイパシフィック航空にて香港へ
9/4 (火)	香港～ 名古屋	キャセイパシフィック航空にて中部国際空港へ、 解団式後、解散

ガイドブックを郵送した。

4. 研修旅行の行程

研修旅行1日目、午前1時50分に中部国際空港に集合し各自チェックインを行った後、団結式を行った。午前16時10分発のキャセイパシフィック航空により午後19時20分に香港国際空港へ到着した。乗り継ぎのためこの日の残りの時間は空港で過ごした。

研修旅行2日目、午前1時発の飛行機が2時間ほど遅れたため、ミラノへの到着が午前10時頃となった。香港での乗り継ぎのための時間と、長時間のフライトにより学生の表情に疲労感が現

われていた。バスにてミラノ市街に移動を始めると、これまでの表情から一変した。バスを降りて徒歩にて移動する際、初めて見るミラノ市街の建造物を興味深そうに見学しながら通りを抜けると、威風堂々と建つドゥオモ（写真1）に圧倒された。この時すでに多くの学生がイタリアの魅力に心引かれたようであった。ガレリア、スカラ座等の建造物を見学した後、バスにてヴェネツィアに移動した。



写真1 ミラノ ドゥオモ

研修旅行3日目、この日はヴェネツィア観光を主とした。大小多くの水路が張り巡らされている独特な街並みを見学し、とても感動していた。ドゥカーレ宮殿（写真2）は日本とは全く異なる建築物で、その内部が黄金に輝いている部屋があり、また壁や天井に絵画が描かれておりとても興味深く見学していた。ゴンドラ乗船やヴェネツィアンガラスの工房見学等、ヴェネツィアの文化を余すことなく体験し、非常に充実した1日となった。



写真2 ドゥカーレ宮殿内

研修旅行4日目、まずはミラノ郊外にあるアルファロメオ博物館（写真3）を訪問した。新旧様々の自動車がタイムライン方式で展示されており、楽しみながら見学していた。博物館内のレストランで昼食をとった後、マラネロへ移動しフェラーリ博物館（写真4）を訪問した。博物館内には市販車からレース車両まで多くの自動車が展示されており、普段あまり目にするできない高級車を間近で見ることができ感動していた。



写真3 アルファロメオ博物館

研修旅行5日目、日程的にフェラーリ工場の見学が難しい状態で始まった研修旅行であったが、フェラーリ工業専門学校関係者の粘り強い交渉のおかげでこの日稼働している工場の見学をする



写真4 フェラーリ博物館にて



写真5 ランボルギーニ博物館

ことができた。高級車のパーツを作業員が鮮やかな手さばきで取り付ける様を見て、感嘆の声を上げていた。昼食はフェラーリ工業専門学校の教諭方と共にレストランで郷土料理を堪能した。

また、この日はランボルギーニ工場及び博物館（写真5）も訪問した。イタリアを代表する2大スーパーカーの生産工場に入場できたことに、学生達は非常に満足すると共に感動していた。博物館には歴代のランボルギーニが飾られており、時間を忘れるほど熱中して見学していた。この日の夕食は、フェラーリ専門学校の教諭宅にてウェルカムパーティーが開かれた。テーブルに並べられた様々な家庭料理はどれもおいしく、学生はとても満足すると同時にイタリア人の暖かさを肌で感じる事ができた。

研修旅行6日目、朝食後、ボローニャにあるドゥカティ博物館（写真6）を訪問した。二輪自動車なので博物館自体はコンパクトであるが、他の博物館同様に歴代のオートバイが並べられており、二輪が好きな学生は細部の構造まで真剣に見学していた。その後、この旅行で発となる列車に乗りローマへ移動した。

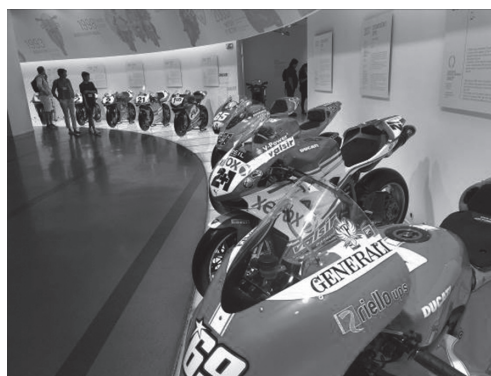


写真6 ドゥカティ博物館

研修旅行7日目、まずは世界最小の国家であるバチカン市国を訪れた。サンピエトロ大聖堂（写真7）の中に入るとその落ち着いた雰囲気、学生は感動してただ静かに見学していた。その後、首都であるローマの市内を観光した。トレビの泉、スペイン広場、パンテオンそしてコロッセオ等を訪れた。この他にも非常に多くの歴史建造物が残っており、これらを見学することでイタリアの迫力を肌で感じていた様子であった。

研修旅行8日目、バスにてローマ・フィウミチーノ空港へ移動。午後1時のキャセイパシフィック航空の乗り継ぎ便のため香港へ向かった。研修旅行中、日本に台風が接近しているとの情報が入り心配であったが、無事香港に到着した。



写真7 サンピエトロ大聖堂

研修旅行9日目、日本に上陸した台風の影響でフライトの遅延状態が続いた。学生は本日中に日本へ帰れるのかと心配していたが、5時間の遅れで香港を出発することができた。中部国際空港には午後9時頃に到着し、その後解団式を行い研修旅行を終了した。

5. 考 察

参加した全ての学生が非常に満足していた。これは各社の工場で、憧れである高級車の生産過程や作業の様子等を実際に自分の目で見る事ができたことや、博物館で普段見ることのできない車両を数多く見る事ができたことによるものであると考える。また、今年度から二輪自動車の博物館見学を復活させたことも満足度向上につながったと思う。都市訪問では日本とは異なる美しい街並みに感動している様子で、特にミラノのドゥオーモの壮大さに圧倒され、ヴェネツィアではゴンドラ遊覧で水の都を満喫していた。また、ローマは至る所に歴史建造物があり、イタリアの偉大さの象徴のような都市の中に自身をおくことで、それぞれがこの研修旅行で感慨深いものがあったことであろう。学生にとって短い期間であったが、多くの貴重な体験をすることができ大変充実した日を過ごしたことであろう。

今年度の研修旅行の計画をする際、日程に悩まされた。イタリアでは8月は休暇中のため当初の予定では、工場見学ができないとされていた。ところが、8月中であっても工場が稼働していることがわかり見学を行うことができた。ところで、この工場見学は本学とフェラーリ専門学校との提携によって実現されたともいえるので、工程に含めることができたことは大きな意義があったといえる。しかし、もう少し早い時点での学事日程等も含めた日程調整が必要であると考えられる。

6. ま と め

この研修旅行では、過去の海外研修旅行に関わる学生の満足度及び報告書を吟味しながら旅程を企画立案し、実施したので、ほとんどの学生がイタリアでの貴重な体験を満足してくれる結果となった。この経験を糧とし、今後の彼らの人生の中で役に立つ時が来る事を願う。また、研修旅行中は病気やけがも無く、全員が無事に帰国できたことが、何よりも一番の成果であった。さ

らに、こうした研修旅行を今後も行うことで本学とフェラーリ専門学校との提携関係を一層深めていくことにつながることを期待したい。

最後に、この研修旅行を実施するにあたり多大な協力を頂いた本学の教職員の皆様、研修先の調整及び現地での案内をして頂いた学園本部の蜂須賀先生には、ここに深く感謝の意を表します。